

## 音楽委員会

### 1 研究テーマ

自ら課題をもって追求し、表現する喜びの味わえる授業

～ 楽曲に対する思いやイメージを一人一人が持ち続け、それを素直に表現させるための指導はどうあったらよいか。～

( 音楽的な美しさを求める意味で「追求」とする)

### 2 研究課題

(1) 楽曲に対する思いやイメージを、一人一人が継続して持ち、さらに深めていくための指導

- ・ 楽曲との出会わせ方。
- ・ イメージをふくらませ、深めていく指導。

(2) 楽曲に対する思いやイメージを豊かに表現していくための指導

- ・ 歌唱指導の中で、児童・生徒が心を開いて歌うことができる場作り。
- ・ 自分の思いやイメージを歌唱表現につなげていくための指導
- ・ 自分の思いやイメージを、豊かに表現していくための指導

### 3 指導の実際

研究授業実施：授業日：11月 2日(火) 授業学級：小布施中学校2年3組

指導者：唐澤史比古 先生(中川中学校教頭)

授業者：北川原理恵 教諭

題材名「速度と強弱...豊かに表現しよう」

(教材名『サンタルチア独唱』【表現(歌唱)】)

学校目標からカリキュラムの決めだし

小布施中学校では、「夢、忍耐、思いやり」の学校目標のもと、合唱もその中核活動に据えられている。その様な中で、音楽科では自らの課題を持ち、表現の工夫ができる生徒の育成を重点目標の一つとして掲げ、日常の授業にも取り組んでいる。今回の授業でも、「表現を粘り強く追究する生徒の姿」を期待し、また、実際の生徒の様子からその姿をとらえることができた。

子どものニーズにあった授業展開とその実際

学級、学年、全校などという集団で歌うことに関しては、前向きで意欲的に取り組める生徒達。しかし、中には音程が取れて合唱になればそれで良いと思う生徒もいる。そこで、自分のイメージやその表現を大事にして、できた喜び、学ぶ喜びを得ることができるように、またそのことがより音楽を楽しむ姿につながるように今回の授業を設定した。

本時では、一人で自分の表現を追究して、グループごと聴き合いながらさらに表現を深めていくという場面であった。

授業評価と授業改善

日頃、集団で表現することが多い歌唱。指導する教師側も「一人一人」より、「全体」に重点をおいて指導しがちである。結果として、一人ひとりの評価ではなく、全体としての評価になってしまいやすい。

今回は、全体では前向きに歌っている生徒たちを、あえて一人にすることで、一人一人の力を明確にすることとその育成の方向を探った。このことで、集団であっても行わなければならない指導が何であるかがはっきりしてきたと考えられる。実際の場面については項目4を参照にしていきたい。

#### 4 この事例から明らかになったこと

##### 【授業の事例より】

S.T生：「1回目の サンタルチアから大きく、<>をしっかりと歌う。」  
歌う。

K.H生：「2回目の サンタルチア～が盛り上がった。最初の出だしをもっとやさしく歌うと、もっと強弱がつくと思う。」

T.W生：「2回目の方が大きい声だったけど、もっと大きくした方がいい。」

N.S生：「かなた島へ～が大きくなってよかった。 サンタルチア～はもっと盛り上げてほしい。」

上記の場面は、グループで聴き合う場面である。発表者は自分の表現したいことをことばで具体的に示している。また、聴いていた生徒は発表者が表現しようとしていたことに関する内容について感想をもっている。このグループでの活動からは

自分の表現についてどのようにしたいのかがはっきりしていると、積極的に表現ができる。  
(S.T生)

友達の演奏を聴く時に、発表者が表現しようとしていることを聴き取ろうとし、その表現に対して、的確なアドバイスができるようになる。(K.H生、N.S生)

友達の演奏から、表現しようとしていることをとらえ、その良さを聴き取ることができる。  
(T.W生、N.S生)

お互いの発表にアドバイスしあう中から、曲をどう表現していったらよいかを常に考えるようになる。

##### 【全体のまとめ】

- (1) 一人歌いにより、生徒達がそれぞれの考えを持って自分の表現を継続して追究するようになった。
- (2) 生徒同士がお互いに聴き合い、アドバイスをする活動により、表現することはもちろん聴き合う、学び合う力がより高まった。
- (3) (1)、(2)のような生徒の姿から、日頃「集団」による表現の中でもこのようなことが実現できるようにしなければならない。

#### 5 来年度への課題

- (1) 生徒にイメージを持たせるための手だて。

曲から何かを感じとることはできるが、それを表現したり、さらに深めていくための手だてを探ることが必要である。体験から思い出す、歌詞を読む、書く、などの方法を有効に生かしていく方法について。

- (2) 表現するための具体的な手だて

今回の授業では、主に表現したいことをことばで表し、歌っていった。強弱や速度については特に、友達同士の話し合いにも音楽要素と結びつけて、具体的なことばも出ていた。これが、さらに体を動かして体験しながら、書きながらといった活動を伴って、リズムやメロディー、和音という音楽要素と結びついたアナリーゼにもつながるものとなって深められるとよいと考えている。